

■ 荒尾市総合計画審議会（令和元年8月30日開催）

【新・第5次荒尾市総合計画の総括(案)について】

- ・ 外国人観光客については国同士の関係性に影響されるところもあるが、**観光入込客数増加**に向け対策を検討する必要がある。
- ・ 本市には**新設事業所数**が多いと感じており、地域の活力につながっていると思われる。
- ・ 空家バンクにおいても、築年数が経った空家の利活用がうまく進んでいない。購入者は若い世代が多いため、**空地**も扱っていくのが大事だと思う。
- ・ 近隣市町との間の人口移動はあまり気にせず、**住みやすさ**を売りにし、通勤先は他市町村であるが**居住地は本市である**、という人を増やすという方向性もあるのではないか。
- ・ 結婚支援と併せ、移住・定住に向けたPRも行っている。今後もイベントなどを通じ、**結婚して地元**に定住する人を増やしたい。
- ・ 転居先として本市を選んだ理由で「行政サービスが充実している」を選んだ人が少ないため、母親に対して、**保育料や医療費に関する支援の情報**を届けることで、本市の魅力をアピールできるのではないか。
- ・ 相乗りタクシーを含め、市全体としてどのような公共交通体系を整備していくのか、**先端技術**も活用しながら検討していく必要がある。
- ・ 人口減少が継続する中、**広域連携による効率化**が必要であるが、まずは、単独で行うことと広域連携で行うことを明確にすることが必要である。
- ・ 本市の教育環境は福祉面で充実しているとの意見も聞くが、市外からの転入者の学校選択の理由としては、「**魅力ある学校**かどうか」や「**落ち着いた学校**かどうか」で判断される傾向もあるので、留意する必要がある。
- ・ **地域包括ケアシステム**の推進に当たっては、本市と玉名市では状況が異なるため、本市の状況を踏まえたシステムを構築していかななくてはならない。
- ・ 在宅で医療を受ける人が多いという状況の中、今後、**介護需要を支える人材**が供給できるのか心配する。